



どうして十二支はあの動物なの??

さてさて、「どうして十二支はあの動物なの?」と誰しもが一度は疑問に思ったことはありませんか? 日本ではこんな民話が語り継がれています。

皆々の大昔のある年の暮れのこと、神様が動物たちにお触れを出したそうよ。「元日の朝、新年のあいさつに出かけて来い。一番早く来た者から十二番目の者までには、順にそれぞれ一年間の重カ物の大い手にしてやろう」

動物たちは、ありが一番として、めいめいが気張って元日が来るのを待っていた。ところが猫は神様のところにいついくのかを忘れてしまったので、ねずみに訊くと、ねずみはわざと一日遅れの日を教えてやった。猫はねずみの言うのを間に受けて喜んで帰っていたと。

さて元日になると、牛は「おらは歩くのが遅いので、一足早く出かけるべ」と夜のうちから支度をし、まだ暗いのに出発した。牛小屋の天井でこれを見ていたねずみは、ほんとは牛の背中に飛び乗った。そんなことは知らず、牛が神様の御殿に近付いてみると、まだ誰も来ていない。

我こそ一番と喜んで待つうちに門が開いた。とたんに牛の背中からねずみが飛び降り、ちよちよと走って一番になってしまった。それで牛は二番、それから虎、兎、青鬼、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の順で着いた。猫は一日遅れで行ったものだから番外で仲間に入れなかった。それでねずみを恨んで、今が今でもねずみを追い回すのだそうよ。

これは福島県のものですが、類話は日本全国に伝わっており、他におくれてきた猫が神様に「顔を洗って出直してこい」と怒られて以来、猫が顔を洗うようになったなどというものもあるそうです。



2013年も定期検診
でお待ちしております!

Start →

→ Goal